

パネリストの経歴

【コーディネーター ^{ひぐち よしお}樋口 美雄 氏（慶応義塾大学商学部教授）】

・まち・ひと・しごと創生会議 有識者委員

・1952年生まれ。商学博士。一橋大学経済学研究所客員教授、米国スタンフォード大学経済政策研究所客員研究員、オハイオ州立大学経済学部客員教授等を経て現職。専門は労働経済学・計量経済学。厚生労働省労働政策審議会会長などを歴任。

○ ^{おおや のりお}大谷 範雄 氏（栃木県那須烏山市長）

・1948年生まれ。静岡大学農学部卒業。民間企業を経て、栃木県那須郡南那須町助役、町長に就任。2005年10月に旧南那須町と旧同郡烏山町の合併により誕生した那須烏山市初代市長に就任し、現在3期目の市政を担っている。「まちづくりは人づくり」を信条とし、教育面では英語特区やサタデースクールなど特色ある施策を打ち出し、産業面では企業誘致や定住促進を積極的に推進している。また、当面の課題である地域が疲弊する中での活性化対策として、豊かな自然環境や歴史と文化など地域資源の有効活用による雇用の確保・拡大や経済の復興を目指して、那須烏山市では、2013年7月から実践型地域雇用創造事業に取り組んでいる。

○ ^{かめい としかつ}亀井 利克 氏（三重県名張市長）

・1952年生まれ。中京大学卒業。2002年から現職（4期目）。市長就任以来、「福祉の理想郷づくり」を掲げた生涯現役のまちづくりを目指し、「市民主権の地域づくり」と「財政再建」について改革を進める。その間、財政非常事態宣言を行い、地域向け補助金の全廃、交付金化や土地開発公社の解散などを断行。産業政策においては、エコミック・ガーデニングの手法に着目し、地元企業への育成支援を行うことで、特に若者が地元で安心・安定して働き暮らせるまちづくりを見出そうとしている。名張市では、2014年7月から実践型地域雇用創造事業に取り組んでいる。社会保障審議会介護給付費分科会委員、新型インフルエンザ等対策有識者会議委員、厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会委員、医療・公衆衛生に関する分科会委員。

○ ^の ^{ながせ} ^{ゆうじ} **野長瀬 裕二 氏**（山形大学大学院 理工学研究科教授）

・地域雇用開発支援ワーキングチーム 副座長

・1961年生まれ。学術博士。早稲田大学大学院国際経営学専攻博士課程修了。山形大学大学院理工学研究科教授。専門はベンチャー企業経営、地域イノベーション、経営システム工学。主な著書に『地域産業の活性化戦略—イノベーター集積の経済性を求めて』。日本ベンチャー学会理事などを歴任。ニッポン新事業創出大賞最優秀賞、経済産業大臣賞などを受賞。

○ ^も ^{たに} ^{こうすけ} **藻谷 浩介**（株式会社 日本総合研究所 主席研究員）

・1964年生まれ。平成合併前 3,200 市町村のすべて、海外 72 カ国をほぼ私費で訪問し、地域特性を多面的に把握。2000年頃より、地域振興や人口成熟問題に関し精力的に研究・著作・講演を行う。2012年より現職。近著に『デフレの正体』、第七回新書大賞を受賞した『里山資本主義』（共に角川 One テーマ 21）、『金融緩和の罠』（集英社新書）、『しなやかな日本列島のつくりかた』（新潮社、7名の方との対談集）。